

## 「土砂災害について考えたこと」

さぬき市立寒川小学校 4年 高畑 咲良 さん

今年の八月十五日とても大きな台風がやってきました。たくさんの雨と強い風に家がゆれて、とてもこわく感じました。テレビをつけるとひなんをしている人がたくさんうつって、「わたしもひなんした方がいいのかな。」とお父さんに聞いてみました。今は、だいじょうぶだと言ってくれましたが、さぬき市でも台風のえいきょうで土砂災害がおこったことがあると聞いておどろきました。わたしは身近に災害がおこるとは思っていません。でも、昨年おこった西日本豪雨もあり、近くでおこった災害のことを調べてみようと思いました。

それは、平成十六年の台風二十三号です。十月二十日、香川県の東部を中心に記録的な豪雨となりました。香川県では、しゃ面ほうかい、土石流、河川のはんらん、内水被害が発生しました。県内の被害は、死者十一人、軽傷二十八人、住宅の全かい四十八棟、半かい四十棟、一部そんかい三百四十八棟、床上しん水四千四百三十一棟、床下しん水一万三千三百三十六棟におよんだそうです。インターネットで、どんな台風だったか内ようや写真を見てみました。そして、わたしが、生まれる前のことで全ぜん知らなかったのですが、おじいちゃんの家がこの台風で土砂災害の被害にあっていたことを知りました。おじいちゃんの家は、台風の時、川の水と土砂が流れ込み、一階部分がほぼつかってしまっただけです。水がひいた時には、家がかたむき、入ることもできないじょうたいだったということです。その時みんな仕事に行っていなかったため無事でしたが、家にいたら命があぶなかったとおじいちゃんが教えてくれました。いつも遊びに行っている家にそんなことがあったのかとすごくおどろきました。また、みんなが無事で、本当に良かったと思いました。そして、台風の後家族がどうしていたのかを聞くと、ひなん所で、一日すごし、親せきの家で二ヶ月ほどすごさせてもらったそうです。家の中にあったテレビや冷ぞう庫、家具などほぼ全て使えなくなり、毎日みんなでかたづけをしたそうです。親せきや友達がたくさん手伝いに来てくれて、うれしかったし、本当に助かったのだそうです。みんな仕事を休んできてくれたみたいでした。さい近、災害時にボランティアで活動している人のことをよくニュースで見ますが、身近なこととして感じる出来事となりました。

また、昨年の西日本豪雨の時には、にげることができなかつたり、ひなん所がわからなかつたりした人が多くいて亡くなってしまったとニュースや新聞で知りました。とても悲しいことだと思います。

土砂災害は、いつおこるか分かりません。自分や家族、まわりの人を守るためにわたしに、何ができるでしょうか。考えていきたいと思います。まず、家族で、話合ったことは、みんなが家にいない時に災害がおこった時のことをきめました。ひなん所が家の近くにあることを知りました。みんなにれんらくができない時や学校に向かっている時などなにかあったら集まる所をきめておくことは、とても大切なことだと思います。ひなん所の場所も何度か見てかくにんしておこうと思っています。そして、家の中もさいかくにんです。災害があっても、すごせるよう、水などを多めにじゅんぴしたり、ほぞんのできるパンをこう入しました。持ち出す物を入れておいたり、まとめておいたりすることも必要だと感じました。災害はないのが一番ですが、いざという時のために、自分たちの意しきを高め、じゅんぴをしていくことが命の守ることにつながるのだと考えています。これからも家族や友達と話をしていきたいです。